

“チムグクル”

6月23日「沖縄慰霊の日」、私立つくば開成国際高校3年、平安名^{へいあんな}秋^{あき}さんが平和の詩を読み上げました。

文末の～この沖縄の「チムグクル」を～が気に入り調べてみました。

「くくる」とは「心」という意味。心に宿る深い思い、真心を指し、今も沖縄で大切にされている、思いやりや助け合いの精神など、心の優しさや豊かさを表した言葉。

ほかにも「ちむちむん」=温かい思いやりのある人、「ちむえ～」=わけ、という言葉もある。

意味が理解できたので、読み返してみると、沖縄の人たちの無念さや悲しさ、そして、深い愛情と優しさに、心が締め付けられます。おばあはどんな気持ちで「兄」に触れていたのだろうか。

全文を紹介します。

六月
溶けかけたアイスを手に取り出す
緑萌ゆるこの島の昼下がり
礎に刻まれた「兄」に
まるであの日のように
そっと触れるおばあは涙は
陽炎が登る摩文仁の丘に
ただ果てしなく広がっていく
その涙は体を包み込み
私を「あの日」へといざなう
限りないこの空は
何を覚えているのだろう
涙に満ちたおばあは瞳は
何を語りかけているのだろう
七十八年前の
あの日
あの時
かけがえのない
たったひとつの命が
憎しみと悲しみの中で
散っていった
名も無き赤子の
微かな
微かな泣き声は
震える母の手によって
冷たく光の無いガマの中で
儚く消えていった

幾多もの砲弾が
紺碧の海を黒く染める鉄の嵐となって
この島に降り注いだ
戦争が起きる前
そこには日常があった
私達と同じように
原っぱを駆け回り
友達とおしゃべりをする
みんな暖かいご飯を食べ
時には泣き
時には笑い
時には「ありがとう」を伝える
そんな今と変わらない日常が
平和が
そこにはあった
平和は不確かだ
脆く崩れやすい
いつもすぐそばにあるのに
いつのまにか消えていく
おばあは涙は
摩文仁の丘に永遠（とわ）に灯る平和の火は
今、私達に問いかける
平和とは何かを
私達に出来ることは何かを
私は過去から学び
そして未来へと語り継いでいきたい

私事で恐縮ですが、義母は 1945 年 8 月 6 日、8 時 15 分、広島市内で被爆しました。それから 38 年後、我が家の第一子が生まれました。(義母にとって初孫)

出産に立ち会っていた義母の第一声は『五体満足でした』というものでした。

放射能の影響が孫に出ることを心配していたと、私は感じました。

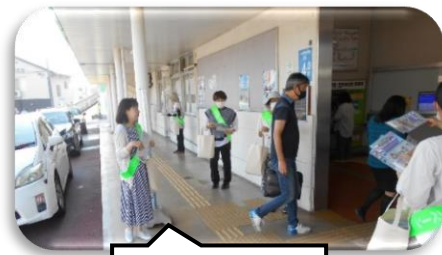
原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、残された者の苦しみを、僅かではありますが義母から察することができます。

私が小学生の頃は夏休みの登校日に、黙とうをしていた記憶があります。学校に就職してしばらくは、同じような取り組みをしていたと思いますが、現在はどうでしょう。

「沖縄慰霊の日」の詩を共有して、一緒に平和の尊さを考えられたらと思います。

おばあ
の涙を
沖繩の
想いを
かけが
えのない
人達を
決して
失いた
くはない
から
今日も
時は過
ぎてい
く
いつも
と変わ
らなく
先人達
が紡い
できた
平和を
次は私
達が紡
いでい
こう
そして
世界に
届けて
いき
たい
平和を
創り
守って
いく
この沖
繩の「
チムグ
クル」
を

街頭キャンペーン



金光駅の活動

「青少年育成強調月間」の 7 月 11 日(火) 7 時 30 分から 8 時過ぎまで、鴨方駅周辺と金光駅周辺で、啓発用チラシや啓発品の入ったクリアファイル配りながら、啓発活動を行いました。

チラシは「SNSの利用は要注意」「青少年育成強調月間」の 2 枚です。参加していただいたのは、育成指導員の方、活動協議会の方、玉島警察署の方、教育長以下教育委員会の方々です。用意していたグッズ 700 セットは高校生を中心に、通勤している人たちにすべて配り切りました。また、この日は鴨方中学校男子バレーボール部の生徒 12 名が駅の清掃活動をしており、積極的に啓発活動に協力していただきました。清掃活動はコロナの影響で自粛していたそうですが、数年前から実施しているそうです。県大会への出場権を勝ち取っているそうなので、さらなる活躍を期待しています。ガンバレ!



鴨方駅の活動



鴨方交番の署員の方も



鴨方中男子バレー部のみなさん

★ ★ ★ ★ あさくち花火大会 ★ ★ ★ ★

8 月 26 日(土) あさくち花火大会が 4 年ぶりに寄島町において開催されます。当日は市内外から多くの観覧者が予想されます。そこで、市内の青少年が安心・安全に地域の行事に参加できるよう、浅口市青少年活動協議会等と協力して補導活動を行います。

久しぶりのあさくち花火大会が、天候に恵まれ、夜空に美しく大きな花を咲かせることをお祈りしています。☆彡

